

## IAEA プレスリリース仮訳

## IAEA 調査団、福島第一原子力発電所の廃炉計画についてのレビューを終了

2013 年 12 月 4 日

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組に関する IAEA の専門家の調査団によるレビューが本日終了した。「東京電力（株）福島第一原子力発電所 1～4 号機の廃止措置に向けた中長期ロードマップ」に関する国際ピアレビューは、2013 年 11 月 25 日から 12 月 4 日まで実施された。

19 人のメンバーによる調査団は、日本が原発事故によって生じる多くの複雑な課題に対応するために、より積極的なアプローチを採用していることを賞賛した。関連する当局は、持続可能な解決のため、時間とともにその戦略を進化させてきている。

「日本は、福島第一原発の廃炉を安全に実施するため、その戦略を改善し、必要リソースを割り当てるための良い基盤を構築した」と団長のファン・カルロス・レンティッホ IAEA 核燃料サイクル・廃棄物技術部長は語った。「しかしながら、状況は非常に複雑な状態であり、発電所の長期安定性を確保するために解決しなければならない大変難しい課題が存在し続けている」

日本政府の要請により、IAEA の調査団は、発電所の廃炉に関連する幅広い課題、特に東京電力による 4 号機の使用済み燃料プールからの燃料取り出し、そして汚染水管理の課題にフォーカスして、調査を行った。加えて、調査団は、海水、海底土及び海洋生物などの海洋における放射線状況をモニタリングする日本の取組に関しても検討を行った。

IAEA 調査団は、経済産業省及び東京電力の関係者との間で広範囲にわたる議論を行った。調査団は、原子力規制庁の関係者とも会合を持ち、海水モニタリングに関する議論を行った。また、調査団は、事故があった現場を訪問し、発電所の現状や廃炉に向けた進捗状況に関する情報を直接入手した。

日本政府に本日提出された暫定サマリーレポートにおいて、調査団は、福島第一原子力発電所の廃炉準備のために、これまで数多くの成果があげられていることを認めた。例えば、以下のとおり。

- 東京電力は、4 号機の使用済み燃料プールからの燃料取り出しを成功裏に開始した。この作業は、事故現場の長期安定性を確保するための不可欠なものである。

- 多くの課題はあるものの、日本政府と東京電力は福島第一原発の広範な汚染水問題を扱うための明確に定義された包括的な一連の対策を策定した。
- 原子力規制庁と日本の関連機関は、事故のあった発電所の周辺環境（海洋環境を含む）における放射線レベルを監視するための包括的なモニタリングプログラムを策定している。
- 東京電力と経済産業省は主要な技術課題に対応するための革新的なツールの開発を進展させている。例えば、原子炉の漏洩箇所を特定するための遠隔操作技術の開発は、最初の成功例であり、格納容器補修に向けて重要な一歩になるものである。

これに加え、IAEA 調査団は、現在の取組を改善することが期待される分野への助言を提供した。例えば、以下のとおり。

- 日本政府と東京電力は、発電所における水問題（地下水の原子炉建屋への流入の防止やそのような対策の効率性のモニタリングなど）に対応するための努力を継続することが奨励される。
- 発電所における汚染水の量が増え続けていることに関して、東京電力は、汚染水処理の努力を増強し、その更なる管理のためにあらゆる選択肢（認められた基準に適合した管理された放出の再開を含む）を検証するべきである。この選択肢の実施においては、東京電力は適切な安全と環境影響に関する評価を実施し、規制上の審査のために評価結果を提出すべきである。
- 日本は福島第一サイトにおける長期的な安定にむけての準備を継続する必要がある。また、廃棄物管理の解決策を開発する必要がある。廃棄物関連施設は、その耐用年限において廃炉プロセスをサポートされるよう計画されるべきである。また、廃棄物の特性把握のために試験施設を設立すべきである。
- 原子力規制庁は、環境データの一貫性を確保するための、試験所間の比較を行うことで、海水モニタリングプログラムを高度化すべきである。

「我々は長期間のプロセスの始まりの段階にいるものの、日本は状況に対するよりよき理解と課題に対応するために何か重要であるかということへの理解が進みつつある」とレンティホ団長は述べた。

IAEA 調査団の最終報告書は1月末までに日本に提出される予定である。

本ミッションに関する日本からの要請は、2011年9月にIAEA加盟国により承認された「原子力安全に関するIAEA行動計画」の文脈に則ったものである。この行動計画は、世界的な原子力安全の枠組みを強化するための取組を規定しており、世界中の経験を活用するためにピアレビューミッションを実施することを奨励している。